

平成30年9月1日

昇 学校だより

9月号

港区立筈小学校

校長 石井 卓之

経験から実践へ

校長 石井 卓之

災害とまで言われた今年の暑い真夏日から始まった夏休みが終わりました。地域や学校によっては、7月中の水泳指導を中止にしたところもありました。筈小学校では、開始前にプールの水を減水して新たに注水することでプールの水温を下げました。また、熱中症計で指数を計測したり、プールサイドに水筒を持ち込ませて水分補給を心がけたりすることで、実施をしました。まだまだ暑い日が続きますので、熱中症には引き続き気を付けていきます。

子供たちはこの夏休み、どんな経験をしたのでしょうか。私が担任をしていた時代、9月1日に子供たちの体験談を聞くのがとても楽しみでした。旅行先や田舎などで普段できない体験をした子、素晴らしい文化や自然に触れた子、保護者と関わる時間をもつ中でいろいろなことを教えてもらった子、粘り強く取り組む体験をした子、今までできなかったことができるようになった子、残念ながら計画通りに進まなかった子、どの体験の中にも無駄なことはありませんでした。子供たちの吸収力や伸びは、本当に素晴らしいものがあります。そして、夏休みの体験を基に、その力が発揮される2学期がとても楽しみです。2学期は音楽会があります。6年生は水泳記録会や連合運動会など、他校と競い合う行事もあります。筈小学校らしさに期待しています。

さて、今年度4月、筈小学校に着任してきて感激したことの一つに、地域の方々や高陵地区青少年対策委員会の方々など、地域が学校を心から愛し、そして支えてくださっていることです。6月30日(土)には本村小学校で「プール遊び大会」がありました。7月28日(土)には台風のために中止となりましたが、「夏休み水遊び大会」が予定されていました。そして、8月18日(土)から20日(月)には山梨県の平山キャンプ場での「みなとキャンプ」。どれも、高陵地区青少年対策委員会が主催で行われました。私も19日の日に、わずか2時間ほどでしたが、みなとキャンプに顔を出しました。流しそうめんや箸づくりなど、多くの地域の方が子供たちのために頑張っている姿を目の当たりにして、本当にありがたく思いました。昔はどの街にもあった地域が子供を支える光景、残念ながら今は当たり前ではありません。「学校も、もっとがんばらねば。」と帰りの車の中で考えていました。

生活指導部

生活目標

◆落ち着いて生活しよう

安全目標

◆階段や廊下の安全な歩き方を考えよう

猛暑だった夏休みも終わり、いよいよ2学期の始まりです。よい学校生活をスタートさせるための第一歩は、まず“登校時刻”を守ることです。そのほかにもたくさん「学校のきまり」がありました。それをもう一度思い出して、落ち着いて生活するためにきまりを守るよう、声をかけていきます。

また、生活リズムが急に変わると体調を崩しがちになります。早寝早起きやバランスの良い食事を心がけるよう、ご家庭でもご協力をお願いいたします。